

JDSF Referee Rule Book

Vol.1 2022 年 6 月

20220930 追記

Vol.1.1 20221207 改訂

Vol.2 20230401 改訂

Vol.2.1 20230426 改訂

Vol.2.2 20230724 改訂



Japan Drone Soccer Federation

日本ドローンサッカー連盟

理念

ドローンサッカー®を通じて豊かで健全なバリアフリースポーツ文化を創造し、競技を通じてドローン操縦技術の向上と共に、家族や企業、学生のサークル、地域のコミュニティなどでのチームワークの醸成を図り社会の発展に貢献する。

ビジョン

ドローンサッカー®競技の発展と普及に努め、ドローンを身近な存在にすることで先端技術を取り入れた新しい世界の実現とカルチャーの創造を図る。

多様性を持つ人々が共に、競技を通じ、プレイヤーが共に成長しその姿をもって、国内はもとより世界の人々との友好を広く持って国際社会に貢献する。

使命

一般社団法人日本ドローンサッカー連盟が指名する JDSF 公式審判員の使命

- ・ 競技の魅力と、競技を通じて得られる喜びを何よりも大切にすること。
- ・ フェア精神を貴び、技術を探求する姿を尊重すること。
- ・ プレイヤー第一主義を貫いて、信念をもって厳正なジャッジを行うことができる知見と技術の向上に努めること。
- ・ 関わりのあるすべての人々を大切にし、成長と情熱、挑戦の高い志しを持ち続けること。

【JDSF Referee Rule Book の編集目的】

ドローンサッカー®の大会・競技規則は一般社団法人日本ドローンサッカー連盟（JDSF）が制定しているものであり JDSF 及び JDSF に加盟している支部、賛助会員、一般会員によって開催されるドローンサッカー®は国際規格に則した規則に沿って行われる。

スポーツとして広く普及させる上で、国際規格に則した厳正な規則の運用と、その定着は競技者の公平な育成及び競技者を拡大する上で、適切に運用することは世界に通用するプレイヤーの育成を行う上で、重要な規則であり規則の運用者である公式審判員の使命と共に熟知の上、運用することが本編集の目的である。

本編の記載事項は編集時点で最新の内容であるが、適時、国際規則のアップデートと共に、競技者第一主義の思想の元、随時改訂を加える予定であるため競技会運営者及び JDSF 公式審判員は JDSF 発刊の本編 JDSF Referee Rule Book を良くご覧ください。

※FIDA（国際ドローンサッカー協会）FIDA DRONE SOCCER RULE BOOK_JP VOL.1 も併せてご覧ください。

【目次】

1) ドローンサッカー®とは

2) 名称の取り扱い

3) フィールド規定

4) ドローンボール

5) 競技者

6) 審判員の構成

7) 大会規則

8) 競技規則

9) 付則

①公式用語について

②主審・副審の信号（手信号・旗・笛・等）

②JDSF 組織

10) 追加規則（2023 年 10 月～適用）

1) ドローンサッカー®とは

ドローンサッカー®は、球状のプラスチックフレームに覆われた専用のドローンボールを使用し5対5で戦う戦略型チームスポーツです。ドローンボールを専用のフィールド両サイドの空中に設置した円形のゴールに入れることで、その得点を競います。年齢・性別に関わらず、また身体に障がいのある方も一緒に楽しめるバリアフリースポーツです。

2) 名称の取り扱い

ドローンサッカー®の名称は競技やその類似する形態を表すものであり登録商標です。

ドローンサッカー®の名称はAOSテクノロジース株式会社が保有する商標であり、株式会社オートバックスセブンに契約の元、使用許諾が与えられています。

(登録番号 第5983929号)

JDSF及びJDSF支部、賛助会員、一般会員は別途定める規約の元使用することが出来ます。

3) フィールド規定

ドローンサッカー®の競技で使用する競技場はフィールドと表現し側面四方と天井部を強度を担保したネット等で囲んだケージで行い、プレイヤーはケージの外で操縦します。ケージのサイズは以下の通り規定する。

JDSF 本部が主催する公式試合で使用するフィールド規定

I : 【class40 (40 cm機体)公式試合サイズ】 国際共通規格

II : 【class20(20 cm機体)公式試合サイズ①】 国際共通規格

III : 【class20(20 cm機体)公式試合サイズ②】 国内規格

JDSF 本部が認定する認定試合やカジュアルな大会で使用するフィールド規定

IV : 【class40(40 cm機体)認定試合サイズ】 国内規格

V : 【class20(20 cm機体)認定試合サイズ①】 国内規格

VI : 【class20(20 cm機体)認定試合サイズ②】 国内規格

【公式試合フィールド規定】

JDSF 本部が主催する公式試合で使用するフィールド規定

I : 【class40 (40 cm機体)公式試合サイズ】 国際共通規格

ケージサイズ

短辺：7 M 長辺：16M 高さ：5M

床面に中心線を設ける

操縦スペース : 短辺より 2 M 以上

スターティングポイント : 短辺より 1.5M 以上

ゴール位置 : 短辺より 1.5M 以上

ゴール高さ : 地面よりゴール中心まで 2M～3 M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：100 cm～120 cm 内径：60 cm～80 cm 厚み：20 cm (± 2 cm)

II : 【class20 (20 cm機体)公式試合サイズ①】 国際共通規格

ケージサイズ

短辺：4M 長辺：8 M 高さ：3 M

床面に中心線を設ける

操縦スペース : 短辺より 1M 以上

スターティングポイント : 短辺より 1M 以上

ゴール位置 : 短辺より 1M 以上

ゴール高さ : 地面よりゴール中心まで 1.5M～2 M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：50 cm (± 1 cm) 内径：30 cm (± 1 cm) 厚み：10 cm (± 1 cm)

Ⅲ：【class20 (20 cm機体)公式試合サイズ②】 国内規格

ケージサイズ 短辺：3M 長辺：6M 高さ：2.4M～3M

床面に中心線を設ける

操縦スペース：短辺より 1M 以上

スターティングポイント：短辺より 1M 以上

ゴール位置：短辺より 1M 以上

ゴール高さ：地面よりゴール中心まで 1.5M～2M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：50 cm (±1 cm) 内径：30 cm (±1 cm) 厚み：10 cm (±1 cm)

【認定試合フィールド規定】

JDSF 本部が認定する認定試合やカジュアルな大会で使用するフィールド規定

Ⅳ：【class40 (40 cm機体)認定サイズ】 国内規格

ケージサイズ 短辺：4M 長辺：8M 高さ：3M～3.5M

床面に中心線を設ける

操縦スペース：短辺より 2M 以上

スターティングポイント：短辺より 1M 以上

ゴール位置：短辺より 1M 以上

ゴール高さ：地面よりゴール中心まで 2M～3M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：100 cm～120 cm 内径：60 cm～80 cm 厚み：20 cm (±2 cm)

又は簡易的に内径 60 cm～90 cm のフラフープで代替することも可

Ⅴ：【class20 (20 cm機体)認定サイズ①】 国内規格

ケージサイズ 短辺：4M 長辺：8M 高さ：3M～3.5M

床面に中心線を設ける

操縦スペース：短辺より 1M 以上

スターティングポイント：短辺より 1M 以上

ゴール位置：短辺より 1M 以上

ゴール高さ：地面よりゴール中心まで 1.5～2M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：50 cm (±1 cm) 内径：30 cm (±1 cm) 厚み：10 cm (±1 cm)

又は簡易的に内径 40 cm～60 cm のフラフープで代替することも可

Ⅵ：【class20 (20 cm機体)公式・認定サイズ②】 日本国内規格

ケージサイズ 短辺：3M 長辺：6M 高さ：2.4M～3M

床面に中心線を設ける

操縦スペース : 短辺より 1M 以上
スターティングポイント : 短辺より 1M 以上
ゴール位置 : 短辺より 1M 以上
ゴール高さ : 地面よりゴール中心まで 1.5M～2M ※左右に揺れない構造
ゴールサイズ 外形: 50 cm (±1 cm) 内径: 30 cm (±1 cm) 厚み: 10 cm (±1 cm)
又は簡易的に内径 40 cm～60 cm のフラフープで代替することも可

上記規定する。

4) ドローンボール

Class40 (40 cmサイズ) ドローンボール規定

- ・使用するドローンボールはオートバックスセブンが販売する公式機体を使用すること
- ・丸い外骨格で覆う形状で直径 40 cm $\pm$ 2 cm
- ・装備重量 1,100g 以下
(バッテリー装着状態で測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外)
- ・外骨格の解放面の単一面積が 150 cm²以下
- ・商業広告の禁止
- ・所属チームと相手チームのドローンボールは全ての方向で確認可能な色の変更可能な LED 装置をつけること (赤・青必須)
- ・ストライカーのドローンボールも他のドローンボールと確実に区別できること
- ・ストライカーとわかるよう機体にリボンを着用すること (競技主催者より支給)

Class20 (20 cmサイズ) ドローンボール規定

- ・使用するドローンボールはオートバックスセブンが販売する公式機体を使用すること
- ・丸い外骨格で覆う形状で直径 20 cm $\pm$ 1 cm
- ・装備重量 100 g 以下
(専用 BT 非装着測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外)
- ・外骨格で覆われていなければならない
- ・商業広告の禁止
- ・所属チームと相手チームのドローンボールは確実に区別できなければならない
- ・ストライカーのドローンボールも他のドローンボールと確実に区別できること
- ・ストライカーとわかるよう機体にリボンを着用すること (競技主催者より支給)

5) 競技者

選手の装備規定

- ・服装は自由であるが明確にチームメンバーがわかることが必要
(帽子、制服、ベスト、A 4 サイズ以上の標識いずれか)
- ・目を守るメガネやサングラスの装着を推奨
- ・1 人称映像装置着用、携帯が可能
- ・予備のドローンボールの準備可 (1 ゲーム内での交換不可)
- ・禁止事項
 - ①相手のプレーを妨害する 「発光装置・電波発信機」 を装着及び携帯すること
 - ②競技の進行を妨害する「音響関連装置」の装着及び携帯すること
 - ③競技開始前に、装備の相互確認が義務付けられる

6) 審判員の構成

ジャッジメント

- ・競技会のジャッジメントは日本ドローンサッカー連盟公式審判員にて行われる
- ・主審、副審の資格は別途規定に沿って定め認定される
- ・主審 1 名、副審 2 名で構成する
(class40 では得点とペナルティの正確な判定のため副審の数を 4 人に増員することもできる)
- ・主審及び副審にてジャッジし、主審が権限と裁量を持つ
- ・主審は競技中のすべての選手の観測が可能な場所に位置すること
- ・主審と副審のジャッジが不一致の場合は、主審を優先する
- ・副審は 2 (4) 名設置し、両チームの操縦席と観客席の間に位置しゴールとスコアボードの両方を観察する
- ・副審は主審がジャッジできない状況になった場合、主審に変わることができる
- ・イベントや非公式の競技会の場合、ジャッジは主審 1 名で行うことも可とする

7) 大会規則

ドローンサッカー®認定機体のドローンボールを使用して行われる「ドローンサッカー®トーナメント」はドローンボールの大きさによってクラスが分かれ、初心者対象の 20 cm 機体 (SKYKICK) を使用する「ユースクラス」・40 cm 機体を使用した中上級者対象の「アドバンストクラス」・「エクストリームクラス」など、ドローンボールの仕様、参加チームの出場経験 (= ドローンサッカー®トーナメントポイント) によってクラス分けを行いレベルに応じた運営を行う。

※国際大会では 40 cm 機体を class40 20 cm 機体を class20 と表現する。

大会規則の基本は以下の通りであるが、大会主催者が事前に定めて公表する内容については、公式審判員は良く把握し適正な競技会の運営に努めなければならない。

以下に基本的な大会規則を記します。

大会規則

- I : 【ドローンサッカー®トーナメント】 class40 (40 cm 機体)
- II : 【ドローンサッカー®トーナメント】 class20 (20 cm 機体)
- III : 【ドローンサッカー®クラス・ランキング】
- IV : 機体検査項目

ドローンサッカー®大会規則(2020 年 4 月 20 日制定) (2020 年 12 月 23 日改訂)
(2022 年 4 月 15 日改訂)
(2022 年 6 月 2 日改訂)
(2023 年 4 月 1 日改訂)

I :【ドローンサッカー®トーナメント】class40 (40 cm機体)

第1条 クラス分け

「ドローンサッカー®ポイントシステム」を導入しレベルに応じたクラス分けを行います。

1. 出場ポイント (2022 年度からの累積換算)

ドローンサッカー®トーナメント出場回数をもとに設定

- ・累積 10 回以下のチーム・・・公式試合・認定試合のいずれかの出場=1 ポイント付与
- ・11 回以上のチーム・・・一律 15 ポイント付与 (15 ポイントが上限で固定される)

成績ポイント (2022 年度から換算開始)

当年と前年の試合成績をもとに設定

- ・試合成績で一定のポイントを付与
- ・優勝：10P 付与
- ・2 位入賞：5 P 付与
- ・3 位入賞：1 P 付与

出場ポイントと成績ポイントを合計したものが「ドローンサッカー®トーナメントポイント」となります。

各チームのポイントは随時更新され、日本ドローンサッカー®連盟事務局よりランキング発表を行います。

2. ポイントによる出場クラスの決定

大会申込み用紙に開催クラスと共に出場可能ポイントが明記される場合があります。

出場可能ポイントの判断はチーム（選手）が申込みを行う時点とします。

※上記の他に大会によって特別に企画追加されるクラスがあります。

募集内容、参加資格などは各大会の申込用紙に明示されます。

第2条 競技用ドローンボール (認定機体)

1. 競技用ドローンボールの種類

ドローンサッカー®トーナメントに使用できるドローンボールは、発売元のオートバックスセブンの認定機体であるXR D-SOCCER AN-S075Bとします。

※詳細は大会申込用紙に明示されます。

2. 競技用ドローンボールの仕様（詳細は大会申込用紙をご覧ください）

すべての競技用ドローンボールは認定機体に限られます。機体の構成、組立はキット組立説明図に準じ、各パーツは説明図に指定された以外の方法で使用することはできません。但し以下の規定内での加工や部品の取り外し、追加取り付けは認められます。オートボックスセブン製オプションパーツは指定の方法で使い、他社製および自作パーツの使用に関してはオートボックスセブンの認定を取得した部品を使用せねばなりません。

- ・ 認定機体であることを証明する「Drone Soccer 認定カード」を提示できるよう携帯すること
- ・ 外側のガード部は丸い外骨格で覆う形状で直径 40 cm $\pm$ 2 cmであること
- ・ 装備重量 1,100g 以下
（搭載 BT で測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外）
- ・ 外骨格の開放面の単一面積が 150 cm²以下であること
- ・ 商業広告禁止
- ・ ストライカーと他の機体とは確実に区別できなければならない
- ・ 所属チームと相手チームの区別が可能であること（LEDカラー照明の点灯）
- ・ 全ての方向で確認可能な色の変更が可能な LED 装置を付けること（赤・青必須）
- ・ 予備機体は、モーター、動力用電池、が正規機体と同一のものに限って認められます。ただし機体検査を受けて認められることが必要です。
- ・ 1 ゲームにおいて正規機体と予備機体及び他選手の機体との交換は認められません。
- ・ 競技機体の仕様は上記を原則とし使用可能なパーツや競技指定パーツ等については各大会申込用紙に明記されます

第3条 モーター

市販されているモーターはすべて使用可能です。

但し極端な改造を施したものや、機体検査の際に構造上安全でないと大会運営事務局が判断した場合は、使用することはできません。

※禁止事項詳細は大会申込用紙をご覧ください。

第4条 バッテリー

バッテリーは一般的に購入可能な製品に限り使用可能です。

推奨仕様はリチウムポリマーバッテリー 4 セル 14.8V - 2200mAh 80C がパワー、持続性、重量のバランスが取れておりおすすめいたしますが、4 セル以下で上記装備重量内であれば他のバッテリーを使用することが出来ます。

但し無加工・無改造で使用するとし、コネクタ端子や外装フィルムなどを個人で修理、変更したものは使用できません。

第5条 送信機

法律で定められた周波数の範囲内の電波を使用し、大会の参加には 2.4GHz 帯プロボが必要です。(一財)日本ラジコン電波安全協会の登録シールが貼られたものを使用すること。なお、身体の障がい等のサポートを行う補器類の装着は認められます。

第6条 選手構成

1 チーム最大 10 名以下で構成する(選手 7 名以下、コーチ 3 名以下)

コーチが選手を兼ねることは可

- ・選手は複数のチームを跨いで競技に参加できない。(移籍することは可)

- ・シーズンにおいて他のチームに移籍することは可能

但し元の所属チームに戻る移籍はできない

※シーズン = (4/1-3/31)

※次のシーズンに元の所属チームに移籍することは可能

- ・選手は事前に登録することが必要

- ・選手構成は「ストライカー 1 名」「フィールドプレイヤー 4 名」とする

- ・フィールドの「操縦エリア」には選手のみが立ち入ることが出来る

- ・選手総員 3 名以上いない場合そのセットは負けとなる

- ・セット中の選手交代や送信機の交換は不可とする

- ・インターバルタイムは選手の交代が可能

但しドローンボールや送信機も選手に紐ついたものを使用すること

- ・競技に参加している選手以外は送信機の操作は禁止される(操作時は失格となります)

第7条 選手の服装・携行品規定

- ・服装は自由であるが明確同一チームとわかることが必要で、帽子、制服、ベスト

A4 以上の標識のいずれかを利用すること

- ・目を守るメガネやサングラスの装着を推奨

- ・1 人称映像装置の着用、携帯が可能です。但し法規に適合した機材の運用を厳守すること

- ・禁止事項

- 1) 相手のプレーを阻害する「発光装置・電波発信機」を装着及び携帯すること

- 2) 競技の進行を阻害する「音響関連装置」の装着及び携帯すること

- 3) 競技開始前に、装備の相互確認が義務付けられる

第8条 機体検査

すべての機体は、競技規定を満たすものであるか競技前後に機体検査を行います。

規定に反する部分がある場合は、修正されない限り競技へ参加できません。

競技機体の違反については使用選手がその責任を負います。

第9条 競技の成立

天候やフィールド設備の不備などにより競技続行が不可能と判断された場合、1セット以上の競技が完了されていれば競技成立とみなし、完了セットやゲームの成績をもって順位が決定されます。

第10条 競技の不成立

天候または参加者の人数により、競技を行うことが困難と判断された場合、競技不成立として中止となります。

第11条 日本ドローンサッカー連盟が主催する大会・イベントにおける免責事項

日本ドローンサッカー連盟が主催（以下「主催者」）する大会・イベントでは、下記免責事項を定めます。

1. 主催者の判断で、天候・その他の事情により大会・イベントの開催を中止する場合があります。
2. 参加費をお支払いいただく有料の大会・イベントが中止となった場合、お支払いいただいた参加費以上の返金・補償はいたしかねます。
天候・その他の事情により、有料の大会・イベントが開催途中で中止された場合、参加費の返金は競技が成立していない選手に対してのみ行うものとし、競技が成立している選手への返金はいたしかねます。
3. 参加費不要の大会・イベントにおいて、天候・その他の事情により開催の中止が決定した場合、選手への補償はいたしかねます。
4. 主催者は大会・イベント開催期間内において発生した一切の事故や怪我・病気などの責任を負いかねますことをあらかじめご了承ください。
参加選手および保護者または付き添い者は、自己責任において保険への加入を行ってください。
5. 貴重品は選手の責任で管理するものとし、会場で発生した盗難・紛失について、主催者は一切の責任を負いません。
6. 大会・イベントへ参加するに当たっての往路・帰路等移動途中の事故・怪我・病気等に対しても責任を負いません。
7. 主催者は、何ら通知することなく、当サイトまたはサイトに掲載した情報の訂正、修正、追加、削除等をいつでも行うことができますものとしします。

※この大会規則に掲載されていない事項については主催者の決定によるものとします。

上記規定する。

ドローンサッカー®大会規則(2020 年 4 月 20 日制定) (2020 年 12 月 23 日改訂)

(2022 年 4 月 15 日改訂)

(2022 年 6 月 2 日改訂)

(2023 年 4 月 1 日改訂)

Ⅱ：【ドローンサッカー®トーナメント】class20 (20 cm機体)

第 1 条 クラス分け

初心者対象の class20 (20 cm機体) を使用する「ユースクラス」は 1 クラスとし獲得ポイントによるランキングを行います。

1. 出場ポイント (2022 年度からの累積換算)

ドローンサッカー®トーナメント出場回数をもとに設定

- ・累積 10 回以下のチーム・・・公式試合・認定試合のいずれかの出場=1 ポイント付与
- ・11 回以上のチーム・・・一律 15 ポイント付与 (15 ポイントが上限で固定される)

2. 成績ポイント

当年と前年の試合成績をもとに設定 (2022 年度から換算開始)

- ・試合成績で一定のポイントを付与
- ・優勝：10P 付与
- ・2 位入賞：5 P 付与
- ・3 位入賞：1 P 付与

3. トーナメントポイント

出場ポイントと成績ポイントを合計したものが「ドローンサッカー®トーナメントポイント」となります。各チームのポイントは随時更新され、日本ドローンサッカー®連盟事務局よりランキング発表を行います。

※上記のほかにも、大会によって特別に企画追加されるクラスがあります。

募集内容、参加資格などは各大会の申込用紙に明示されます。

第 2 条 競技用ドローンボール (認定機体)

1. 競技用ドローンボールの種類

ドローンサッカー®トーナメントに使用できるドローンボールは、発売元のオートバックスセブンの認定機体である XR D-SOCCER SKY KICK とします。

※詳細は大会申込用紙に明示されます。

2. 競技用ドローンボールの仕様 (詳細は大会申込用紙をご覧ください)

すべての競技用ドローンボールは認定機体に限られます。機体の構成、各パーツは販売

時の仕様のまま使用することとします。

但し以下の規定内での加工や部品の取り外し、追加取り付けは認められます。

オートボックスセブン製オプションパーツは指定の方法で使い、他社製および自作パーツの使用に関してはオートボックスセブンの認定を取得した部品を使用せねばなりません。

- ・認定機体であることを証明する「Drone Soccer 認定カード」を提示できるよう携帯すること
 - ・外側のガード部は丸い外骨格で覆う形状で直径 20 cm ± 1 cm であること
 - ・装備重量 100g 以下
(専用バッテリー非装着・ストライカーシール除外・選手仕様などの表示除外)
 - ・専用の外骨格で覆われていなければならない
 - ・商業広告禁止
 - ・ストライカーと他の機体とは確実に区別できなければならない
 - ・所属チームと相手チームの区分けが可能であること (LED カラー照明の点灯)
- 予備機体は、正規機体と同一のものに限って認められます。ただし機体検査を受けて認められることが必要です。
- ・1 ゲームにおいて正規機体と予備機体及び他選手の機体との交換は認められません。
 - ・競技機体の仕様は上記を原則とし使用可能なパーツや競技指定パーツ等については各大会申込用紙に明記されます。

第3条 モーター

販売時に指定されているモーターのみ使用可能です。

極端な改造を施したものや、機体検査の際に安全でないと大会運営事務局が判断した場合は、使用することはできません。

※禁止事項詳細は大会申込用紙をご覧ください。

第4条 バッテリー

バッテリーは SKYKICK 専用バッテリーのみ使用可能です。

第5条 送信機

セットで指定された送信機を使用してください。

又、無加工・無改造で使用することとし、個人で修理、変更したものは使用できません。

但し、身体の障がい等のサポートを行う補器類の装着は認められます。

第6条 選手構成

1 チーム最大 10 名以下で構成する（選手 7 名以下、コーチ 3 名以下）

コーチが選手を兼ねることは可

- ・選手は複数のチームを跨いで競技に参加できない。（移籍することは可）
- ・シーズンにおいて他のチームに移籍することは可能
但し元の所属チームに戻る移籍はできない

※シーズン＝（4/1-3/31）

※次のシーズンに元の所属チームに移籍することは可能

- ・選手は事前に登録することが必要
- ・選手構成は「ストライカー2 名」「フィールドプレイヤー3 名」とする
- ・フィールドの「操縦エリア」には選手のみが立ち入ることが出来る
- ・選手総員 2 名以上いない場合そのセットは負けとなる
- ・セット中の選手交代や送信機の交換は不可とする
- ・インターバルタイムは選手の交代が可能です
但しドローンボールや送信機も選手に紐ついたものを使用すること
- ・競技に参加している選手以外は送信機の操作は禁止される（操作時は失格となります）

第7条 選手の服装・携行品規定

- ・服装は自由であるが明確同一チームとわかることが必要で、帽子、制服、ベスト
A4 以上の標識のいずれかを利用すること。
- ・目を守るメガネやサングラスの装着を推奨
- ・1 人称映像装置の着用、携帯が可能です。但し法規に適合した機材の運用を厳守すること。
- ・禁止事項
 - 1) 相手のプレーを阻害する 「発光装置・電波発信機」 を装着及び携帯すること
 - 2) 競技の進行を阻害する「音響関連装置」の装着及び携帯すること
 - 3) 競技開始前に、装備の相互確認が義務付けられる

第8条 機体検査

すべての機体は、競技規定を満たすものであるか競技前後に機体検査を行います。

規定に反する部分がある場合は、修正されない限り競技へ参加できません。

競技機体の違反については使用選手がその責任を負います。

第9条 競技の成立

天候やフィールド設備の不備などにより競技続行が不可能と判断された場合、1セット以上の競技が完了されていれば競技成立とみなし、完了セットやゲームの成績をもって順位が決定されます。

第10条 競技の不成立

天候または参加者の人数により、競技を行うことが困難と判断された場合、競技不成立として中止となります。

第11条 日本ドローンサッカー連盟が主催する大会・イベントにおける免責事項

日本ドローンサッカー連盟が主催（以下「主催者」）する大会・イベントでは、下記免責事項を定めます。

1. 主催者の判断で、天候・その他の事情により大会・イベントの開催を中止する場合があります。
2. 参加費をお支払いいただく有料の大会・イベントが中止となった場合、お支払いいただいた参加費以上の返金・補償はいたしかねます。

天候・その他の事情により、有料の大会・イベントが開催途中で中止された場合、参加費の返金は競技が成立していない選手に対してのみ行うものとし、競技が成立している選手への返金はいたしかねます。

3. 参加費不要の大会・イベントにおいて、天候・その他の事情により開催の中止が決定した場合、選手への補償はいたしかねます。
4. 主催者は大会・イベント開催期間内において発生した一切の事故や怪我・病気などの責任を負いかねますことをあらかじめご了承ください。

参加選手および保護者または付き添い者は、自己責任において保険への加入を行ってください。

5. 貴重品は選手の責任で管理するものとし、会場で発生した盗難・紛失について、主催者は一切の責任を負いません。
6. 大会・イベントへ参加するに当たっての往路・帰路等移動途中の事故・怪我・病気等に対しても責任を負いません。
7. 主催者は、何ら通知することなく、当サイトまたはサイトに掲載した情報の訂正、修正、追加、削除等をいつでも行うことができるものとします。

※この大会規則に掲載されていない事項については主催者の決定によるものとします。

上記規定する。

ドローンサッカー®大会規則(2020 年 4 月 20 日制定) (2020 年 12 月 23 日改訂)
(2022 年 4 月 15 日改訂)
(2022 年 12 月 7 日改訂)
(2023 年 4 月 1 日改訂)

Ⅲ：【ドローンサッカー® クラス・ランキング】

ドローンサッカー®認定機体のドローンを使用して行われる「ドローンサッカー®トーナメント」はドローンの大きさによってクラスが分かれ、初心者対象の class20 (20 cm機体) (SKYKICK) を使用する「ユースクラス」・class40 (40 cm機体) を使用した中上級者対象の「アドバンストクラス」・「エクストリームクラス」など、ドローンの仕様、参加チームの出場経験 (=ドローンサッカー®トーナメントポイント) によってクラス分けを行いレベルに応じた競技会をお楽しみいただけます。

また獲得したポイントはランキングに反映し HP などでも公開されます。

※国際大会では 40 cm機体を class40 20 cm機体を class20 と表示します。

【ランキングの考え方】

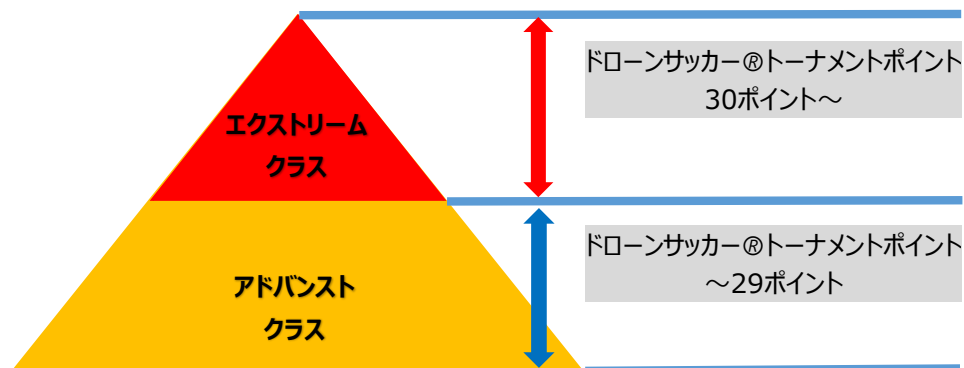
- ドローンサッカー®トーナメントポイントは2ヵ年度累計算出 (経過年度スライド換算)
- 上記をクラス分けとランキングに適用
- ランキングは2種
 - ①生涯ランキング (2ヵ年度累計ランキング)
 - ②単年度ランキング 4月～3月対象

【称号について】

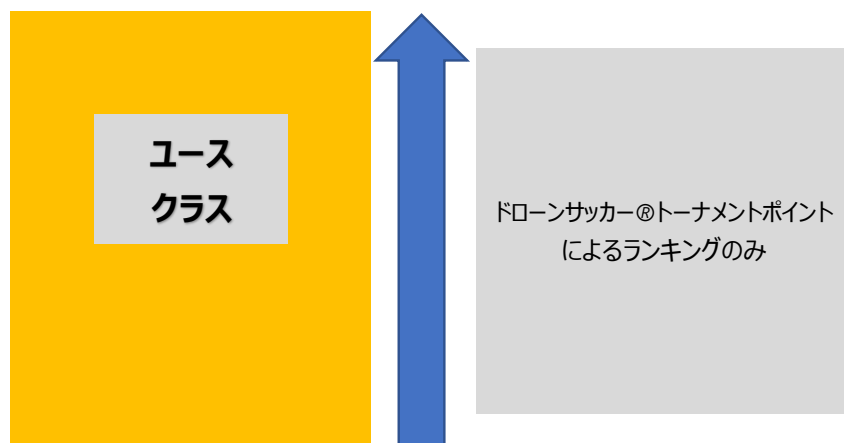
ドローンサッカー®トーナメントポイントの獲得に応じて単年度毎に称号を付与して単年度シーズンチャンピオンとして登録いたします。

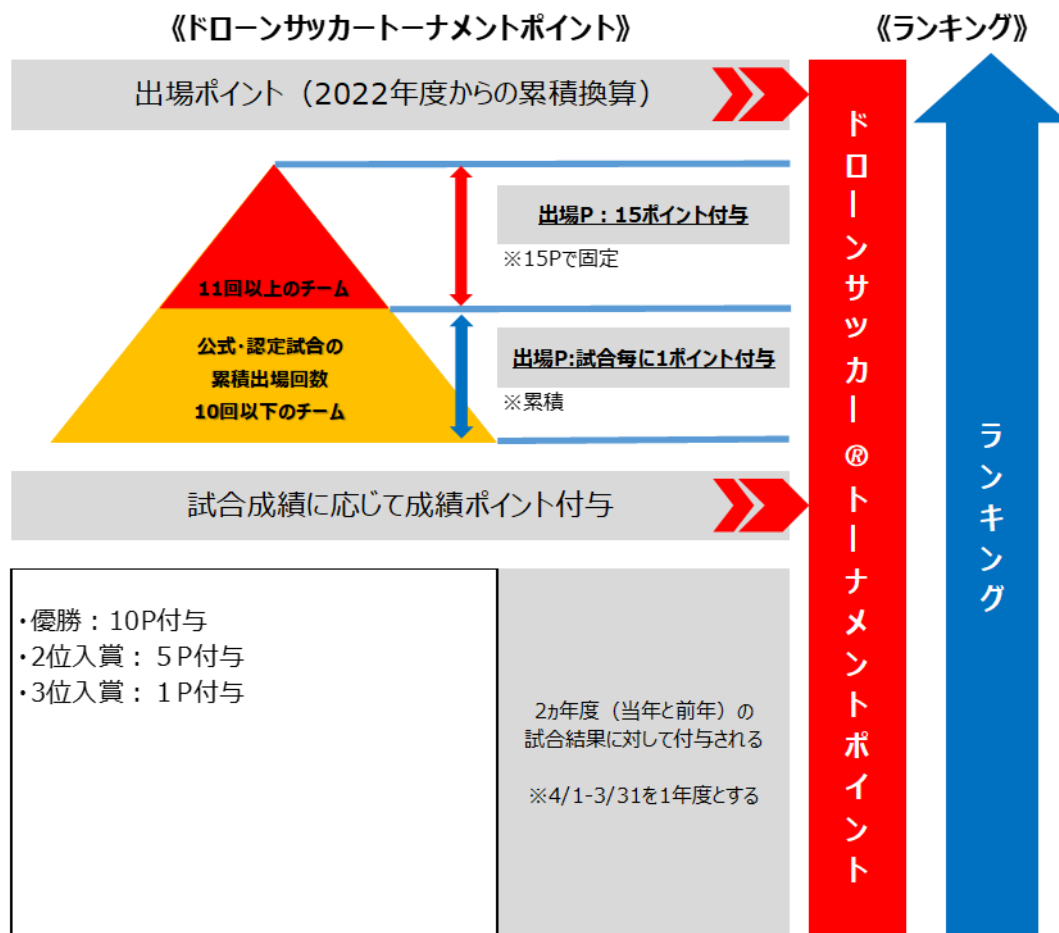
《ドローンサッカークラス分け》

class40 (40cm機体) : 2クラス



class20 (20cm機体) : 1クラス





上記規定する。

IV：機体検査項目

公式競技会においては競技前に主催者により厳正に検査を行うこととし
検査員より指示された箇所は速やかに訂正しなければならない。
訂正が認められない場合は参加資格を喪失し、試合結果を無効とする。

機体検査項目 class40（40 cm機体）

- ・ Drone Soccer 認定カードと機体シリアル適合
- ・ 指定の外骨格を使用すること（ペンタガードの使用）
- ・ 外骨格の開放面の単一面積が 150 cm²以下
- ・ 機体の直径が 40 cm（±2 cm）以内
- ・ 装備重量が 1,100g 以下
（バッテリー装着状態で測定・ストライカーシール除外・選手仕様などの表示除外）
- ・ 全方向で確認可能な色の変更が可能な LED 装置を付けること（赤・青 必須）
- ・ モーターに極端な改造が認められないこと
- ・ バッテリーは無加工・無改造で使用する
（コネクター端子や外装フィルムなどを個人で修理、変更したものは不可）
- ・ 送信機は日本ラジコン電波安全協会の登録シールが貼られたものを使用すること
※身体障がいに対応するスティックの加工などは認められる
- ・ 予備機体は、モーター、動力用電池、が正規機体と同一のものに限定する
※1 ゲームにおいて正規機体と予備機体及び他選手の機体との交換は認めない

機体検査項目 class20（SKYKICK）（20 cm機体）

- ・ Drone Soccer 認定カードと機体シリアル適合
- ・ 指定の外骨格を使用すること（無加工純正品の使用）
- ・ 機体の直径が 20 cm（±1 cm）以内
- ・ 装備重量が 100g 以下
（専用 BT 非装着測定・ストライカーシール除外・選手仕様などの表示除外）
- ・ LED 装置が正常に点灯すること（赤・青 必須）
- ・ 販売時に指定されているモーターのみ使用可能（無改造で使用する）
- ・ バッテリーは無加工・無改造で使用する
（コネクター端子や外装ケースなどを個人で修理、変更したものは不可）
- ・ 送信機は SKYKICK 専用品を無加工で使用する
※身体障がいに対応するスティックの加工などは認められる
- ・ 予備機体は、正規機体と同一仕様のものに限定して認める
※1 ゲームにおいて正規機体と予備機体及び他選手の機体との交換は認めない

8) 競技規則

ドローンサッカー®認定機体のドローンボールを使用して行われるのが「ドローンサッカー®トーナメント」です。ドローンボールの大きさに合わせてクラスが分かれ、初心者対象の class20 (20 cm機体) (SKYKICK) を使用する「ユースクラス」や、class40 (40 cm機体) を使用した中上級者対象の「アドバンストクラス」・「エクストリームクラス」など、ドローンボールの仕様、参加チームの出場経験 (=ドローンサッカー®トーナメントポイント) によってクラス分けを行いレベルに応じた競技会で構成される。

※国際大会では 40 cm機体を class40 20 cm機体を class20 と表現する。

競技規則

○公式試合・認定試合に適用

I ドローンサッカー®トーナメント class40 (40 cm機体)

II ドローンサッカー®トーナメント class20 (20 cm機体) (SKYKICK)

○カジュアルな試合・大会・イベントに適用可

III ドローンサッカー®トーナメント class40 (40 cm機体) 3×3 特別ルール

IV ドローンサッカー®トーナメント class20 (20 cm機体) (SKYKICK) 3×3 特別ルール

V ドローンサッカー®トーナメント class20 (20 cm機体) (SKYKICK) 3×3 特別ルール

上記規定する。

ドローンサッカー®競技規則(2020 年 4 月 20 日制定) (2020 年 12 月 23 日改訂)

(2022 年 4 月 15 日改訂)

(2023 年 4 月 1 日改訂)

I : 【ドローンサッカー®トーナメント】 class40 (40 cm機体)

競技ルール

○チームの構成

- ・ 1 チーム最大 10 名以下で構成する (選手 7 名以下、コーチ 3 名以下)
 - ※コーチが選手として参加しても可
- ・ 選手は 5 名以下 ドローンボールは選手数と同一であること
- ・ 選手構成は、「ストライカー1 名」 「フィールドプレイヤー4 名」 とする
 - ※フィールドプレイヤー：ゴールのディフェンスやストライカーのアシストをするプレイヤーの総称
- ・ 「操縦エリア」 には試合中の選手のみが立ち入れる

○ジャッジメント

- ・ 競技会のジャッジメントは、日本ドローンサッカー連盟公式審判員にて行われる
- ・ 主審、副審の資格は別途規定に沿って認定される
- ・ 審判員は主審及び副審で構成し、主審が権限と裁量を持つ
- ・ 主審は競技中のすべての選手の観測が可能な場所に位置すること
- ・ 主審と副審のジャッジが不一致の場合は、主審を優先する
- ・ 主審は必要に応じて場内に設置した映像装置での確認を行える。
その際の判定は何度でも可能 (映像装置が設置されている場合)
- ・ 副審は 2 名設置し、両チームの操縦席と観客席の間に位置しゴールとスコアボードの両方を観察する
 - (得点とペナルティの正確な判定のため、副審の数を 4 名に増員することもできる)
- ・ 副審は主審がジャッジできない状況になった場合、主審に変わることができる

○競技時間

- ・ 1 セット 3 分ずつ行い 3 セット対戦
- ・ セットの進行中は、作戦タイム等を行えない
- ・ セット間のインターバルは 5 分とし「整備」と「作戦タイム」を行うことが出来る (時間は主審が決定し告知する)
- ・ インターバルの中で「整備」が間に合わない場合でも時間延長は行わない
- ・ セットに入るとき 1 チームで選手が 3 名以上いない場合、該当チームは負けとなる
その際は主審により、次のセットまでのインターバルを 5 分追加できる
- ・ 競技開始 10 秒前の宣言より、セット終了までは競技を中断できない
 - (安全上の問題や公平な競技が継続できない場合は主審ジャッジで中断できる)
- ・ 中断後に上記が改善した場合、残時間にて競技を再開することができる

○無効試合になる場合

- 1) ケージの崩壊、ドローンボールがケージ外に出た場合
- 2) 競技場の施設破損などで負傷者が出た場合
- 3) 停電や運営システムの不具合が発生した場合

○競技の進行方法

・競技前

- 1) コイントスで左右の操縦ゾーンの選択を行う ※3セット変更不可
- 2) 両チームのキャプテンは、ゴールの状態を確認することが出来る

・スタートと終了

- 1) スタート3分前と終了は音響もしくはアナウンスにて予告される
- 2) 競技のスタート・終了はあらかじめ10秒前の予備信号もしくはアナウンスにより告知される
- 3) 上記は最低各1回以上告知され、回数は増やすことが出来る
- 4) ドローンボールがスターティングポイント、選手が操縦スペースに揃った時点で主審により予備信号もしくはアナウンスが告知される
- 5) スタートと終了は予備信号の後、ジャストタイムで手信号と音響で告知される

○ポイント

・ポイントの獲得

- 1) 相手チームのゴールにストライカーのドローンボールが完全に通過すること
- 2) ゴール裏側からのゴールは認められない

・連続ポイント制限（オフサイド）

- 1) 連続ポイントを抑制するためポイントを獲得したチームのすべてのドローンボールはハーフラインより自陣内に戻らなければならない
- 2) 制御不可能なドローンボールは自陣へ戻らなくても可
- 3) 制御が復活した場合は、必ず自陣へ戻らなければならない
- 4) 相手の陣で制御できない状態になった場合は、副審へ申告して操縦スペースから退去すること
- 5) 相手のドローンボールが自陣へ帰ることを意図的に阻み、相手の追加ポイント時間を延ばす行為は可
- 6) 上記規定を遵守できない場合はポイント無効及びペナルティを与えられる
 - 1) オフサイド状態の得点は無効
 - 2) ストライカー以外はドローンボールで自陣ゴールを背面から前方に通過したり、ゴール内部の背面を超えて留まってはいけない

・ペナルティの適用

- 1) 競技スタート信号より前に離陸した場合

- 2) フィールドプレイヤーがドローンボールで自陣ゴールを背面から前方に通過したり、ゴール内部の背面を超えて留まった場合

※ストライカーは可

○ペナルティキック

- ・ タイミング：毎セット終了後
- ・ 方法：ストライカーとフィールドプレイヤーの1対1
ストライカーはハーフライン、フィールドプレイヤーはスターティングポイントよりスタート
- ・ 時間：ペナルティ1回あたり5秒 時間内であれば連続ポイント可
(上記連続ポイント規定適応)

○勝敗

- ・ 1セットで得たポイント数の優勢チームがそのセットを獲得する
- ・ 両チームが同ポイントもしくは無得点の場合は引き分けとする
- ・ 3セットの内、多くセットを持ったチームが勝者となる

○引き分け

- ・ 獲得セット数が同一の場合、1回3分の延長戦もしくは、PK戦をおこなう
- ・ 大会規定で引き分け判断の場合、延長戦とPK戦は行わない

○PK戦

- ・ ペナルティキックと同様の規定で行う
- ・ 両チームそれぞれ3名が交代で5秒間ずつ実施し、総得点で勝敗を決定する

○反則・不法行為

- ・ 反則と不法行為には警告、セット敗、競技敗、があり同じ競技で3回の累積警告で競技敗となる
- ・ 同じ理由で警告を2回受けた場合、セット敗となる
- ・ 警告について
 - 1) 競技選手以外が操縦スペースに留まっているとき
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して軽微な非紳士的な行為をしたとき
 - 3) 競技中のドローンボールに意図的に身体が接触した場合
 - 4) 事前了承無し、整備不良などで意図的に競技を遅延させた場合
 - 5) 競技開始の信号前にドローンボールを動かした場合
- ・ セット敗について
 - 1) 競技中の選手以外が操作した場合
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して重大な非紳士的な行為をしたとき
 - 3) 競技中のドローンボールに意図的に手を触れた場合
- ・ 競技敗について
 - 1) 故意にドローンボールを利用して他人に脅威を与えるなど安全上の落ち度が

ある場合

2) 競技中に審判、相手、観客に対して深刻な非紳士的な行為をしたとき

上記規定する。

ドローンサッカー®競技規則(2020 年 4 月 20 日制定) (2020 年 12 月 23 日改訂)

(2022 年 4 月 15 日改訂)

(2023 年 4 月 1 日改訂)

Ⅱ：【ドローンサッカー®トーナメント】class20 (20 cm機体) (SKYKICK)

競技ルール

○チームの構成

- ・ 1 チーム最大 10 名以下で構成する (選手 7 名以下、コーチ 3 名以下)
 - ※コーチが選手として参加しても可
- ・ 選手は 5 名以下 ドローンボールは選手数と同一であること
- ・ 選手構成は、「ストライカー 2 名」「フィールドプレイヤー 3 名」とする
 - ※フィールドプレイヤー：ゴールのディフェンスやストライカーのアシストをするプレイヤーの総称
- ・ 「操縦エリア」には試合中の選手のみが立ち入れる

○ジャッジメント

- ・ 競技会のジャッジメントは、日本ドローンサッカー連盟公式審判員にて行われる
- ・ 主審、副審の資格は別途規定に沿って認定される
- ・ 審判員は主審及び副審で構成し、主審が権限と裁量を持つ
- ・ 主審は競技中のすべての選手の観測が可能な場所に位置すること
- ・ 主審と副審のジャッジが不一致の場合は、主審を優先する
- ・ 主審は必要に応じて場内に設置した映像装置での確認を行える。
その際の判定は何度でも可能 (映像装置が設置されている場合)
- ・ 副審は 2 名設置し、両チームの操縦席と観客席の間に位置しゴールとスコアボードの両方を観察する
- ・ 副審は主審がジャッジできない状況になった場合、主審に変わることができる

○競技時間

- ・ 1 セット 3 分ずつ行い 3 セット対戦
- ・ セットの進行中は、作戦タイム等を行えない
- ・ セット間のインターバルは 5 分とし「整備」と「作戦タイム」を行うことが出来る (時間は主審が決定し告知する)
- ・ インターバルの中で「整備」が間に合わない場合でも時間延長は行わない
- ・ セットに入るとき 1 チームで選手が 2 名以上いない場合、該当チームは負けとなる
その際は主審により、次のセットまでのインターバルを 5 分追加できる
- ・ 競技開始 10 秒前の宣言より、セット終了までは競技を中断できない
(安全上の問題や公平な競技が継続できない場合は主審ジャッジで中断できる)
- ・ 中断後に上記が改善した場合、残時間にて競技を再開することができる

○無効試合になる場合

- 1) ケージの崩壊、ドローンボールがケージ外に出た場合
- 2) 競技場の施設破損などで負傷者が出た場合
- 3) 停電や運営システムの不具合が発生した場合

○競技の進行方法

・競技前

- ・コイントスで左右の操縦ゾーンの選択を行う ※3セット変更不可
- ・スタートと終了

- 1) スタート3分前と終了は音響もしくはアナウンスにて予告される
- 2) 競技のスタート・終了はあらかじめ10秒前の予備信号もしくはアナウンスにより告知される
- 3) スタートと終了は予備信号の後、ジャストタイムで手信号と音響で告知される

○ポイント

・ポイントの獲得

- 1) 相手チームのゴールにストライカーのドローンボールが完全に通過すること
- 2) ゴール裏側からのゴールは認められない

・連続ポイント制限（オフサイド）

- 1) 連続ポイントを抑制するためのポイントを獲得したチームのすべてのドローンボールはハーフラインより自陣内に戻らなければならない
- 2) 制御不可能なドローンボールは自陣へ戻らなくても可
- 3) 制御が復活した場合は、必ず自陣へ戻らなければならない
- 4) 相手の陣で制御できない状態になった場合は、副審へ申告して操縦スペースから退去すること
- 5) 相手のドローンボールが自陣へ帰ることを意図的に阻み、相手の追加ポイント時間を延ばす行為は可
- 6) オフサイド状態の得点は無効

・ペナルティの適用

競技スタート信号より前に離陸した場合はペナルティを適用され相手チームに1Pが付与される

○勝敗

- ・1セットで得たポイント数の優勢チームがそのセットを獲得する
- ・両チームが同ポイントもしくは無得点の場合は引き分けとする
- ・3セットの内、多くセットを持ったチームが勝者となる

○引き分け

- ・獲得セット数が同一の場合、1回3分の延長戦をおこなう
- ・大会規定で引き分け判断の場合、延長戦は行わない

○反則・不法行為

- ・反則と不法行為には警告、セット敗、競技敗、があり同じ競技で3回の累積警告で競技敗となる
- ・同じ理由で警告を2回受けた場合、セット敗となる
- ・警告について
 - 1) 競技選手以外が操縦スペースに留まっているとき
 - 2) 競技開始の信号前にドローンボールを動かした場合
- ・セット敗について
 - 1) 競技中の選手以外が操作した場合
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して重大な非紳士的な行為をしたとき
 - 3) 競技中のドローンボールに意図的に手を触れた場合
- ・競技敗について
 - 1) 故意にドローンを利用して他人に脅威を与えるなど安全上の落ち度がある場合
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して深刻な非紳士的な行為をしたとき

上記規定する。

ドローンサッカー®競技規則(2019 年 10 月 15 日制定) (2021 年 3 月 2 日改訂)
(2023 年 4 月 1 日改訂)

Ⅲ【ドローンサッカー®トーナメント】40 cm機体 3×3 特別ルール

《競技ルール》

○ケージ（競技場）

- ・四方と天井をネットなどで囲う構造
- ・床の底材は、緩衝材を使用する場合、機体を置いた際に 1 cm以上沈まない構造とする
- ・サイズは、短辺 4 m、長辺 8 m、高さ 3m～3.5m
- ・ケージ内に中心線を設ける
- ・「スターティングポイント」を競技場の短辺から 1 m以上離し線を表示する
- ・「操縦スペース」はケージ短辺より 2m以上のスペースをとって設置する

○ゴール

- ・ゴール形状は円形とし、外形 100 cm～120 cm 内径 60 cm～80 cmとする
視認性の高い色を使用し、照明装置、センサーを設置することが可能
- ・位置はフィールドの短辺中心且つ 1 m以上離して、地面より 2～3mの高さに設置する
- ・ゴール面が左右に揺れないように設置すること

又は簡易的に内径 60 cm～90 cmのフラフープで代替することも可

○ドローンボール規定

- ・使用するドローンボールはオートバックスセブンが販売する公式機体を使用すること
- ・丸い外骨格で覆う形状で直径 40 cm±2 cm
- ・装備重量 1,100g 以下
(搭載 BT で測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外)
- ・外骨格の解放面の単一面積が 150 cm²以下
- ・所属チームと相手チームのドローンボールは全ての方向で確認可能な色の変更が可能
な LED 装置を付けること（赤・青必須）
- ・ストライカーのドローンボールも他のドローンボールと区別できなければならない

○選手規定

- ・1 チーム最大 5 名以下で構成する（選手 3 名以下、コーチ 2 名以下）
※コーチが選手として参加しても可
- ・選手は 3 名以下 ドローンボールは選手数と同一であること
- ・選手構成は、「ストライカー 1 名」「フィールドプレイヤー 2 名」とする
※フィールドプレイヤー：ゴールのディフェンスやストライカーのアシストをするプレイヤーの総称
- ・操縦エリアには試合中の選手のみが立ち入れる
- ・選手総員 1 名以上でないと、そのセットは棄権負けとなる
- ・セット中の選手交代や送信機交換は不可

- ・インターバルタイムは選手交代可能
- ・競技に参加している選手以外は送信機操作禁止（操作時は没収試合となる）

○選手の装備規定

- ・服装は自由であるが、明確にチームメンバーがわかることが必要
（帽子、制服、ベスト、A 4 サイズ以上の標識いずれか）
- ・目を守るメガネやサングラスの装着を推奨
- ・「ストライカー」とわかるよう機体にリボンを装着すること
（競技主催者より支給）
- ・1 人称映像装置着用、携帯が可能
- ・予備の「ドローンボール」の準備可
- ・禁止事項
 - 1) 相手のプレーを阻害する「発光装置・電波発信機」を装着及び携帯すること
 - 2) 競技の進行を阻害する「音響関連装置」の装着及び携帯すること
 - 3) 競技開始前に、装備の相互確認が義務付けられる

○ジャッジメント

- ・主審及び副審にてジャッジし、主審が権限と裁量を持つ
- ・主審は競技中のすべての選手の観測が可能な場所に位置すること
- ・主審と副審のジャッジが不一致の場合は、主審を優先する
- ・副審は両チームの操縦席と観客席の間に位置しゴールとスコアボードの両方を観察する
- ・副審は主審がジャッジできない状況になった場合、主審に変わることができる
- ・上記はイベント規模によりジャッジは主審 1 名で行うことも可とする

○競技時間

- ・1 セット 3 分ずつ行い 3 セット対戦
- ・セットとセットの間のインターバルは 5 分とし、「整備」と「作戦タイム」を行うことが出来る
- ・インターバルの中で「整備」が間に合わない場合でも時間延長は行わない
- ・セットに入るとき 1 チームで選手が 1 名以上いない場合、該当チームは負けとなる
その際は主審により、次のセットまでのインターバルを 5 分追加できる
- ・競技開始 10 秒前の宣言より、セット終了までは競技を中断できない
（安全上の問題や公平な競技が継続できない場合は主審ジャッジで中断できる）
- ・中断後に上記が改善した場合、残時間にて競技を再開することができる

○プレーの進行方法

- ・競技前
コイントスで左右の操縦ゾーンの選択を行う 3 セット変更不可
- ・スタートと終了

- 1) 競技の「スタート・終了」は10秒前の予備アナウンスにより告知される
- 2) スタートと終了は、予備アナウンスの後、ジャストタイムでアナウンス告知される

○ポイント

- ・ポイントの獲得
 - 1) 相手チームのゴールにストライカーのドローンボールが完全通過すること
 - 2) ゴール背面からのゴールは認められない
- ・連続ポイント制限（オフサイド）
 - 1) 連続ポイントを抑制するため、ポイントを獲得したチームのすべての「ドローンボール」はハーフラインより自陣内に戻らなければならない
 - 2) 制御不可能な「ドローンボール」は自陣へ戻らなくても可
 - 3) 制御が復活した場合は、必ず自陣へ戻らねばならない
 - 4) 相手の陣で制御できない状態になった場合は、副審へ申告して操縦スペースから退去すること
 - 5) 相手の「ドローンボール」が自陣へ帰ることを意図的に阻み、相手の追加ポイント時間を延ばす行為は可
 - 6) オフサイド状態の得点は無効
- ・ペナルティの適用
 - 1) 競技スタート信号より前に離陸した場合

○ペナルティキック

- ・タイミング：毎セット終了後
- ・方法：「ストライカー」と「フィールドプレイヤー」の1対1
「ストライカー」はハーフライン「フィールドプレイヤー」はスターティングポイントにてスタート
- ・時間：1回あたり5秒 時間内であれば連続ポイント可（上記連続ポイント規定適応）

○勝敗

- ・1セットで得たポイント数の優勢チームがそのセットを獲得する
- ・両チームが同ポイントもしくは無得点の場合は引き分けとする
- ・3セットの内、多くセットを持ったチームが勝者となる

○引き分け

- ・獲得セット数が同一の場合、1回3分の延長戦を行う

○反則・不法行為

- ・反則と不法行為には警告を行い2回の累積警告でセット敗となる
- ・警告について
 - 1) 競技選手以外が操縦スペースに留まっているとき

上記規定する。

ドローンサッカー®競技規則(2019 年 10 月 15 日制定) (2021 年 3 月 2 日改訂)
(2023 年 4 月 1 日改訂)

IV 【ドローンサッカー®トーナメント】 20 cm機体 SKYKICK 3×3 特別ルール

《競技ルール》

○ケージ (競技場)

- ・ 四方と天井をネットなどで囲う構造
- ・ 床の底材は、緩衝材を使用する場合、機体を置いた際に 1 cm以上沈まない構造とする
- ・ サイズは、短辺 4m、長辺 8m、高さ 3m～3.5m
- ・ ケージ内に中心線を設ける
- ・ 「スターティングポイント」を競技場の短辺から 1 m以上離し線を表示する
- ・ 「操縦スペース」はケージ短辺より 1 m以上のスペースをとって設置する

○ゴール

- ・ ゴール形状は円形とし、内径 3 0 cm ・ 外形 5 0 cm ・ 厚さ 1 0 cmとする (±1 cm)
視認性の高い色を使用し、照明装置、センサーを設置することが可能
- ・ 位置はフィールドの短辺中心且つ 1m以上離して、地面より 1.5～2 mの高さに設置する
- ・ ゴール面が左右に揺れないように設置すること
- ・ 又は、簡易的に内径 4 0 cm～6 0 cm のフラフープで代替することも可

○ドローンボール規定

- ・ 使用するドローンボールは、オートボックスセブンが販売する公式機体を使用すること
- ・ 丸い外骨格で覆う形状で直径 20 cm±1 cm
- ・ 装備重量 100 g 以下
(専用 BT 非装着測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外)
- ・ 外骨格で覆われていなければならない
- ・ 商業広告の禁止
- ・ 所属チームと相手チームのドローンボールは確実に区別できなければならない
- ・ ストライカーのドローンボールも他のドローンボールと区別できなければならない

○選手規定

- ・ 1 チーム最大 5 名以下で構成する (選手 3 名以下、コーチ 2 名以下)
※コーチが選手として参加しても可
- ・ 選手は 3 名以下 ドローンボールは選手数と同一であること
- ・ 選手構成は、「ストライカー1 名」「フィールドプレイヤー2 名」とする
※フィールドプレイヤー：ゴールのディフェンスやストライカーのアシストをするプレイヤーの総称
- ・ 「操縦エリア」には試合中の選手のみが立ち入れる
- ・ 選手総員 2 名以上でないと、そのセットは棄権負けとなる
- ・ セット中の選手交代や送信機交換は不可

- ・インターバルタイムは選手交代可能
- ・競技に参加している選手以外は送信機操作禁止（操作時は没収試合となる）

○選手の装備規定

- ・服装は自由であるが、明確にチームメンバーがわかることが必要
（帽子、制服、ベスト、A 4 サイズ以上の標識いずれか）
- ・目を守るメガネやサングラスの装着を推奨
- ・予備の「ドローンボール」の準備可
- ・禁止事項
 - 1) 相手のプレーを阻害する「発光装置・電波発信機」を装着及び携帯すること
 - 2) 競技の進行を阻害する「音響関連装置」の装着及び携帯すること
 - 3) 競技開始前に、装備の相互確認が義務付けられる

○ジャッジメント

- ・主審及び副審にてジャッジし、主審が権限と裁量を持つ
- ・主審は競技中のすべての選手の観測が可能な場所に位置すること
- ・主審と副審のジャッジが不一致の場合は、主審を優先する
- ・副審は1名 設置し、両チームの操縦席と観客席の間に位置しゴールとスコアボードの両方を観察する
- ・副審は主審がジャッジできない状況になった場合、主審に変わることができる
- ・上記 イベント規模によりジャッジは主審 1名 で行うことも可とする

○競技時間

- ・1セット3分ずつ行い、3セット対戦
- ・セットの間のインターバルは3分し、「整備」と「作戦タイム」を行うことが出来る
- ・インターバルの中で「整備」が間に合わない場合でも時間延長は行わない
- ・セットに入るとき1チームで選手が2名以上いない場合、該当チームは負けとなる
その際は主審により、次のセットまでのインターバルを3分追加できる
- ・競技開始10秒前の宣言より、セット終了までは競技を中断できない
（安全上の問題や公平な競技が継続できない場合は主審ジャッジで中断できる）
- ・中断後に上記が改善した場合、残時間にて競技を再開することができる

○プレーの進行方法

- ・競技前
- ・コイントスで左右の操縦ゾーンの選択を行う 3セット変更不可
- ・スタートと終了
 - 1) スタート3分前と終了はアナウンスにて予告される
 - 2) 競技の「スタート・終了」はあらかじめ10秒前の予備アナウンスにより告知される
 - 3) スタートと終了は、予備アナウンスの後、ジャストタイムでアナウンス告知される

○ポイント

・ポイントの獲得

- 1) 相手チームのゴールにストライカーのドローンボールが完全に通過すること
- 2) ゴール裏側からのゴールは認められない

・連続ポイント制限（オフサイド）

- 1) 連続ポイントを抑制するため、ポイントを獲得したチームのすべての「ドローンボール」はハーフラインより自陣内に戻らなければならない
- 2) 制御不可能な「ドローンボール」は自陣へ戻らなくても可
- 3) 制御が復活した場合は、必ず自陣へ戻らねばならない
- 4) 相手の陣で制御できない状態になった場合は、副審へ申告して操縦スペースから退去すること
- 5) 相手の「ドローンボール」が自陣へ帰ることを意図的に阻み、相手の追加ポイント時間を延ばす行為は可
- 6) オフサイド状態の得点は無効

○勝敗

- ・1セットで得たポイント数の優勢チームがそのセットを獲得する
- ・両チームが同ポイントもしくは無得点の場合は引き分けとする
- ・3セットの内、多くセットを持ったチームが勝者となる

○引き分け

- ・獲得セット数が同一の場合、1回3分の延長戦を行う

○反則・不法行為

- ・反則と不法行為には警告を行い2回の累積警告でセット敗となる
- ・警告について
 - 1) 競技選手以外が操縦スペースに留まっているとき

上記規定する。

ドローンサッカー®競技規則(2019 年 10 月 15 日制定) (2021 年 3 月 2 日改訂)
(2023 年 4 月 1 日改訂)

V 【ドローンサッカー®トーナメント】 20 cm機体 SKYKICK 3×3 特別ルール

3m×6m×h 2.4m～3 m ケージ

《競技ルール》

○ケージ (競技場)

- ・ 四方と天井をネットなどで囲う構造
- ・ 床の底材は、緩衝材を使用する場合、機体を置いた際に 1 cm 以上沈まない構造とする
- ・ サイズは、短辺 3m、長辺 6m、高さ 2.4m～3m
- ・ ケージ内に中心線を設ける
- ・ 「スターティングポイント」を競技場の短辺から 1 m 以上離し線で表示する
- ・ 「操縦スペース」はケージ短辺より 1 m 以上のスペースをとって設置する

○ゴール

- ・ ゴール形状は円形とし、内径 30 cm ・ 外形 50 cm ・ 厚さ 10 cm とする (±1 cm)
視認性の高い色を使用し、照明装置、センサーを設置することが可能
- ・ 位置はフィールドの短辺中心且つ 1m 以上離して、地面より 1.5～2 m の高さに設置する
- ・ ゴール面が左右に揺れないように設置すること
- ・ 又は、簡易的に内径 40 cm～60 cm のフラフープで代替することも可

○ドローンボール規定

- ・ 使用するドローンボールはオートボックスセブンが販売する公式機体を使用すること
- ・ 丸い外骨格で覆う形状で直径 20 cm ± 1 cm
- ・ 装備重量 100 g 以下
(専用 BT 非装着測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外)
- ・ 外骨格で覆われていなければならない
- ・ 商業広告の禁止
- ・ 所属チームと相手チームのドローンボールは確実に区別できなければならない
- ・ ストライカーのドローンボールも他のドローンボールと区別できなければならない

○選手規定

- ・ 1 チーム最大 5 名以下で構成する (選手 3 名以下、コーチ 2 名以下)
※コーチが選手として参加しても可
- ・ 選手は 3 名以下 ドローンは選手数と同一であること
- ・ 選手構成は、「ストライカー 1 名」「フィールドプレイヤー 2 名」とする
※フィールドプレイヤー：ゴールのディフェンスやストライカーのアシストをするプレイヤーの総称
- ・ 「操縦エリア」には選手のみが立ち入れる
- ・ 選手総員 2 名以上でない、そのセットは棄権負けとなる

- ・セット中の選手交代や送信機交換は不可
- ・インターバルタイムは選手交代可能
- ・競技に参加している選手以外は送信機操作禁止（操作時は没収試合となる）

○選手の装備規定

- ・服装は自由であるが、明確にチームメンバーがわかることが必要
（帽子、制服、ベスト、A 4 サイズ以上の標識いずれか）
- ・目を守るメガネやサングラスの装着を推奨
- ・予備の「ドローンボール」の準備可
- ・禁止事項
 - 1) 相手のプレーを阻害する「発光装置・電波発信機」を装着及び携帯すること
 - 2) 競技の進行を阻害する「音響関連装置」の装着及び携帯すること
 - 3) 競技開始前に、装備の相互確認が義務付けられる

○ジャッジメント

- ・主審及び副審にてジャッジし、主審が権限と裁量を持つ
- ・主審は競技中のすべての選手の観測が可能な場所に位置すること
- ・主審と副審のジャッジが不一致の場合は、主審を優先する
- ・副審は1名 設置し、両チームの操縦席と観客席の間に位置しゴールとスコアボードの両方を観察する
- ・副審は主審がジャッジできない状況になった場合、主審に変わることができる
- ・上記 イベント規模によりジャッジは主審 1 名 で行うことも可とする

○競技時間

- ・1セット3分ずつ行い、3セット対戦
- ・セットとセットの間のインターバルは3分し、「整備」と「作戦タイム」を行うことが出来る
- ・インターバルの中で「整備」が間に合わない場合でも時間延長は行わない
- ・セットに入るとき1チームで選手が2名未満の場合、該当チームは負けとなる
その際は主審により、次のセットまでのインターバルを3分追加できる
- ・競技開始10秒前の宣言より、セット終了までは競技を中断できない
（安全上の問題や公平な競技が継続できない場合は主審ジャッジで中断できる）
- ・中断後に上記が改善した場合、残時間にて競技を再開することができる

○プレーの進行方法

- ・競技前
- ・コイントスで左右の操縦ゾーンの選択を行う 3セット変更不可
- ・スタートと終了
 - 1) スタート3分前と終了はアナウンスにて予告される
 - 2) 競技の「スタート・終了」はあらかじめ10秒前の予備アナウンスにより告知される

3) スタートと終了は、予備アナウンスの後、ジャストタイムでアナウンス告知される

○ポイント

・ポイントの獲得

- 1) 相手チームのゴールにストライカーのドローンボールが完全に通過すること
- 2) ゴール裏側からのゴールは認められない

・連続ポイント制限（オフサイド）

- 1) 連続ポイントを抑制するため、ポイントを獲得したチームのすべての「ドローンボール」はハーフラインより自陣内に戻らなければならない
- 2) 制御不可能な「ドローンボール」は自陣へ戻らなくても可
- 3) 制御が復活した場合は、必ず自陣へ戻らねばならない
- 4) 相手の陣で制御できない状態になった場合は、副審へ申告して操縦スペースから退去すること
- 5) 相手の「ドローンボール」が自陣へ帰ることを意図的に阻み、相手の追加ポイント時間を延ばす行為は可
- 6) オフサイド状態の得点は無効

○勝敗

- ・1セットで得たポイント数の優勢チームがそのセットを獲得する
- ・両チームが同ポイントもしくは無得点の場合は引き分けとする
- ・3セットの内、多くセットを持ったチームが勝者となる

○引き分け

- ・獲得セット数が同一の場合、1回3分の延長戦を行う

○反則・不法行為

- ・反則と不法行為には警告を行い2回の累積警告でセット敗となる
- ・警告について
 - 1) 競技選手以外が操縦スペースに留まっているとき

上記規定する。

9) 付則

①公式用語について

ドローンサッカー®競技において使用される用語を普及における共通用語として以下に規定するものとする。なお、公式用語は本編編集時の呼称とし時間経過とともに新たに追加される呼称については本編改定時に変更又は追加するものとする。

以下公式用語（順不同）

○競技を表す用語

・【ドローンサッカー®】

球状のプラスチックフレームに覆われた専用ドローンボールを使用し 5 対 5 で戦う最新戦略型チームスポーツのことを示しドローンサッカー®の名称は競技やその類似する形態を表すもの。

ドローンサッカー®の名称は AOS テクノロジース株式会社が保有する商標であり、株式会社オートボックスセブンに契約の元、使用許諾が与えられている。

（登録番号 第 5983929 号）

JDSF 及び JDSF 支部、賛助会員、一般会員は別途定める規約の元使用出来る。

・【ゲーム】

3 分間を 1 セットとし 3 セット以上でゲームが構成される。

・【セット】

上記ゲームの構成で 1 セットは 3 分間で行われる。

・【インターバル】

セット間に設ける修理、作戦打ち合わせを行うために設定され 5 分間で構成される。

○競技場を表す用語

・【フィールド】

ドローンサッカー®の競技で使用する場所を示す。

・【ケージ】

四辺及び天井部をネットなどで囲んだ形状のものでサイズ及び床面に表記する線は規定されている。

・【円形のゴール】【ゴール】

表記の通り表現する。

- ・【ハーフライン】【センターサークル】

ケージ内床面の中央に位置する線を表す。

- ・【スターティングポイント】

試合スタート時にドローンボールを着地させる場所として床面に表記する線を表す。

- ・【操縦スペース・エリア】

ケージの両短辺に配置する場所 プレイヤーはこの範囲で操縦する。

○プレイヤーや運営者を表す用語

- ・【ストライカー】

競技を行うドローンボールの内、得点を取る役割を持ったドローンボールの呼称。
ストライカーと判定できるストライカーシール・タグ等で区別される。

- ・【フィールドプレイヤー】

競技を行うプレイヤーの内、ストライカー以外の者の呼称。

- ・【コーチ】

チーム構成員で選手に指示、助言を行う者の呼称。

○用具を表す用語

- ・【ドローンボール】

ドローンサッカー®の競技で使用するドローンの呼称。

- ・【ストライカーシール】【タグ】

ストライカーの役目を持つドローンボールに装着する目印の呼称。
試合には赤と青のチーム分けを行いそれぞれ装着することで区別する。

- ・【ペンタガード】

Class40（40 cm機体）のドローンボールの外周部の球状のガードの呼称。

- ・【TOP ガード】

Class20（20 cm機体）のドローンボールの外周部の球状上部のガードの呼称。

- ・【ボトムガード】

Class40（40 cm機体）、class20（20 cm機体）の地上接地部の呼称。

②主審・副審の信号（手信号・旗・笛・等）

ドローンサッカー®競技進行時に発せられる合図は以下の通り

区 分	10秒前	セット開始	ストライカー 交代完了	セット終了
手信号				
音響信号	長く1回 	強く1回 	短く2回 	強く1回 長く1回 

上記は主審が行う

区 分	①得点認定	②得点不認定	③復帰指示	④復帰完了
旗				
GOAL LED色	 赤色 変更	 白色 維持	 赤色 維持	 白色 変更

①：ドローンボールが正規にゴールを通過した状態

この状態でポイントが加算される。但しこの時点からオフサイドに状態になる

②：不正状態のゴール

背面からのゴールや、オフサイド状態でのゴールなどを示す

③：オフサイドの状態でもフサイドからの復帰を指示している状態

④：オフサイドが解除された状態

この時点で次のゴールを狙える状態となる

③JDSF 組織

一般社団法人日本ドローンサッカー連盟（=JDSF）の組織は JDSF の公式ホームページで公開される JDSF 公式 HP：<https://japan-dronesoccer.com/>

10) 追加規則（2024 年 4 月～適用）

2025 年開催予定のワールドカップを見据えた国際共通規則への移行期と位置付けて 2024 年 4 月以降の競技大会には以下の規則を適用する。

※但し FIDA が主催する海外試合については 2023 年 4 月から先行して適用される

1) プレイヤーポジションの設定

各プレイヤーのポジション名称及び識別カラーを設定する

先頭より、ストライカー/ガイド/リベロ/スイーパー/ゴールキーパーとし

それぞれのポジションが識別出来る LED を装着する

2) ストライカーとガイドの役割移行規則

競技中にストライカーを交代することが可能となる

① ストライカーが試合中にリタイヤした場合、ストライカーの役割をガイドと交代することができる

② ストライカーを交代する場合は放棄したストライカーのドローンボールをガイドのドローンボールがタッチしなければならない

③ ガイドがストライカーをタッチする時は、ストライカーの操縦者が放棄宣言をした後、コントローラーを床に下ろした時点から可能で、タッチの成功可否は主審が判断する

④ 主審はストライカーの交代が正当に行われた場合、音響及び信号を利用して成功の可否を選手に知らせなければならない

3) 競技中のストライカーシール・タグ脱落時の対応

競技中にストライカーシール・タグが脱落し、ストライカーやガイドの認識が難しい場合、脱落した瞬間からの得点は認めない

4) チーム区分、ポジション区分に障害となる過度な色の使用（LED 含む）を禁止する ※試合前に相手チームの了承を得たものは可

5) ドローンボールの方向識別などのために追加の LED を装着することは許容されるが色はポジションに合った色でなければならない

6) 交代手順について

① 交代した選手はドローンボールの機体検査を受けなければならない。

② 選手交代時、前の選手が使用していたドローンボールをそのまま使用してもよい。 ドローンボールを交換しない場合③は省略される

【プレイヤーのポジション名称及び識別カラー】

区 分		色	使用者	表示方法
チーム		赤色	チーム全員	LED
		青色	チーム全員	LED
ポジション		緑色	1 番. ストライカー	LED
		ピンク色	2 番. ガイド	LED
		水色	3 番. リベロ	LED
		黄色	4 番. スーパー	LED
		白色	5 番. ゴールキーパー	LED
ストライカー	メイン	タグ・緑	ストライカー	タグ
	サブ	タグ・ピンク	ガイド	タグ

JDSF Referee Rule Book は予告なしに改訂することがあります。

その際は HP や大会案内などに公開すると共に公式審判員に通知いたします。

(2024 年 4 月より国際共通規則への統合を予定しています)

JDSF Referee Rule Bookは無断転載禁止

ドローンサッカー関連規定は、予告なく変更することがあります

発行日 : 2023. 7.24

発行人 : 一般社団法人日本ドローンサッカー連盟

問合せ : <https://japan-dronesoccer.com/contact/>



Japan Drone Soccer Federation

日本ドローンサッカー連盟